

## 埼玉県立大学

岸 井 こずゑ\*

### I. 本校の沿革

1974年4月、浦和市に第一看護科、第二看護科、衛生技術科をもつ埼玉県立衛生短期大学として開学し、1981年には歯科衛生学科及び保育学科を増設しました。1999年4月、越谷市に、看護学科、理学療法学科、作業療法学科、社会福祉学科をもつ埼玉県立大学保健医療福祉学部が開学し、同時に、埼玉県立衛生短期大学を埼玉県立衛生短期大学部に名称変更し、埼玉県立大学に併設しました。2006年には保健医療福祉学部及び短期大学部を統合再編し、健康開発学科（健康行動科学専攻、検査技術科学専攻、口腔保健科学専攻）を設置しました。2014年には社会福祉学科を社会福祉子ども学科（社会福祉学専攻、福祉子ども学専攻）へ改組しました。現在は1学部5学科5専攻を有し、1学年で看護学科150名、理学療法学科40名、作業療法学科40名、社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻50名・福祉子ども学専攻20名、健康開発学科 健康行動科学専攻45名・検査技術科学専攻40名・口腔保健科学専攻30名の学生を受け入れています。2009年には大学院保健医療福祉学研究科 修士課程、2015年には博士後期課程が設置されました（図1、写真1,2）。

### II. 基本理念と教育研究上の目的

本学は、陶冶（誠実で温かい心と主体性を持ち、多様な価値観を尊重する人間性を磨き高める）、

進取（広く先達に学びつつ、未来を志向する教育・研究に取り組む）、創発（多様な連携を通じて、予測を遥かに超える新たな価値を創造する）を基本理念として、保健医療福祉に関する教育・研究の中核となって地域社会に貢献しています。

また、保健医療福祉学部は、現代社会を構成する市民としての豊かな教養、確かな倫理観と人間観を基盤に、保健医療福祉分野における専門的な知識と技術とともに多職種との連携と協働に必要な能力をもって、人々の健康と生活を統合的に支え共生社会に貢献できる人材を育成することを教育研究上の目的とし、教育目標を以下のように設定しています。

- ・ 豊かな人間性：人間が存在することの意義を理解し、その尊厳と基本的人権の尊重に基づき活動できる豊かな人間性と高い倫理観をもつこと。
- ・ 創造力に富む知性：様々な現象を科学的、客観的に捉え、批判的な思考に基づいて主体的かつ創造的に探究する知性をもつこと。
- ・ 高い専門性と連携力：社会の信頼と要請に応える高い専門的知識と技術を修得しつつ、幅広い学問領域の知識や技術を活かしながら多様な人々と連携できる専門性をもつこと。
- ・ 国際性と地域性に基づく協働力：保健医療福祉に関わる現象をグローバルな視点で理解しつつ、地域の人々と協働してその特性に応じた活動ができる能力をもつこと。

\* 埼玉県立大学 kishii-kozue@spu.ac.jp

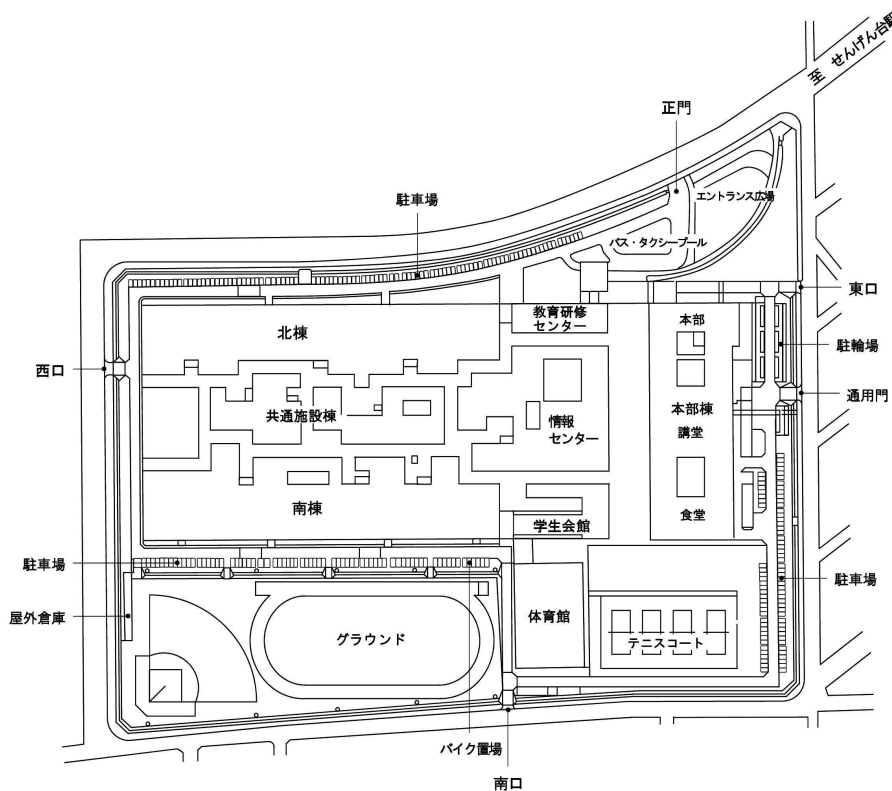


図1 埼玉県立大学 見取り図



写真1 埼玉県立大学 外観



写真2 埼玉県立大学 構内

### Ⅲ. 本学の特徴

本学では教養教育や専門教育に加え、IPW (Interprofessional Work) の実践的な能力を身に付けるために、実習や演習により実際の活動を

体験する専門職連携教育 (IPE: Interprofessional Education) をカリキュラム内に設けています。IPW とは複数の専門職が協働し、利用者や患者の要望に応じていくことを意味し、本学の「連携と統合」の教育を実践することでもあります。こ

れからの少子社会や超高齢社会において、複数の専門職での問題解決が必要であり、今、IPWを実践できる人材が求められています(図2)。

IPEの具体的な取り組みであるIPE科目として、1年次のヒューマンケア論・ヒューマンケア体験実習、2年次のIPW論、3年次のIPW演習、4年次のIPW実習の5科目が設けられ、実習や演習は全学科専攻の学生による混成チームで取り組んでいます。

#### IV. 検査技術科学専攻の概要

本専攻では、以下の4つの能力をもち、地域に貢献できる臨床検査技師の育成を目指しています。

①広い視野をもった豊かな人間性を備え、人間の尊厳を核とした医療人にふさわしい倫理観。②臨床検査に必要な基礎知識と技術を体系的に修得し、それを基盤として検査データを科学的に捉え、主体性をもって理論的かつ総合的に解析できる能力。③臨床検査技師の使命と役割を理解し、多様な人々と連携して医療に貢献できる能力。④グローバルな視点に立って人々の健康を捉え、検

査技術を駆使して持続的に社会へ貢献できる能力。

#### 1. 教育課程編成・実施の方針

(カリキュラム・ポリシー)と特徴

本専攻では、下記の方針に従い科目編成を行っています。

- 1) 初年次教育として、すべての学習の基盤となる能力を習得するための科目を配置しています。
- 2) 幅広い教養と検査医学の基盤となる生命科学に関する科目を配置し、広い視野をもった豊かな人間性と、人間の尊厳を核とした医療人にふさわしい倫理観を培います。
- 3) 臨床検査に必要な基礎知識と技術を段階的に修得するとともに、検査データを科学的視点に立って理論的に考え、総合的な解釈ができる力を養えるよう、体系的で順次性のある専門教育カリキュラムを編成しています。
- 4) 専門職連携の科目や臨地実習を通して、医療チームの一員としての臨床検査技師の使命と役割を理解し、多様な人々と連

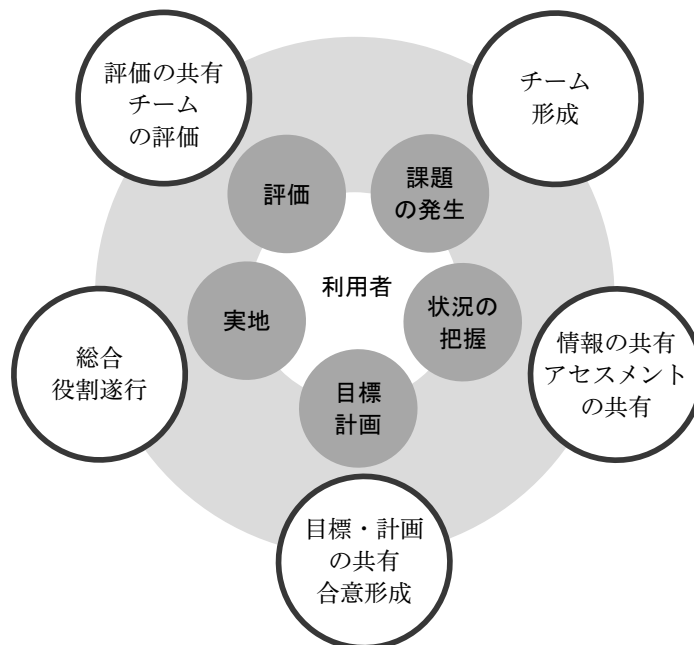


図2 専門職連携教育 (IPE: Interprofessional Education)

携してチーム医療に貢献できる能力を育成します。

- 5) 教養科目と専門科目における学修、最終年度の卒業研究を通して、保健医療の諸問題をグローバルな視点で捉え、その解決に向けて検査技術を駆使して継続的に貢献できる能力を培います。

本専攻の特徴として、可能な限り一人一人が検査手技を身につけ確実にデータを出せるようになるよう、分野ごとに専用の実習室を8室設けています。実習に必要な器具も一人一人にいきわたるよう取り揃えています(写真3)。また卒業研究は、各教員に3~4名の学生が配属され、その研究成果を学内の卒業研究発表会のみならず、多くの学生が各種関連学会の学生部門で発表しています。

## 2. 卒業までに要する単位

2019年度に改訂された新カリキュラムでは、共通科目33単位、臨地実習を含む専門科目95単位(専門基盤科目16単位、検査技術科学専門科目必修75単位・選択4単位以上)が卒業までに必要な単位です。専門基盤科目は専門科目の学習前に備えておきたい医療系学科専攻が共通に学ぶ基礎医学であり、必修11科目が開講されています。また、臨床検査技師に必要な専門科目として、検査技術科学専門科目60科目、専門選択科目14科目が開講されています。

## 3. 最近の動向と特色

2015年に本学大学院保健医療福祉学研究所健康福祉科学専攻内に臨床検査コースが設置され、今年で5年目を迎えています。本コースを終了し修士号を取得した学生の臨床現場への就職状況が良好なこともあり、大学院進学を希望する学部生が増加している状況です。また、2020年度より博士後期課程に臨床検査コースが開設されます。

## V. おわりに

医学・医療技術の進歩はめざましく、臨床検査へのニーズも多様化・専門化してきています。これらのニーズに的確に対応できる臨床検査技師の養成が求められています。一方、教育現場では、4年生大学への移行が進み、さらに大学院における教育・研究の充実が求められています。埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科検査技術科学専攻では、医療現場等における臨床検査の責任と役割を理解し、日々進歩する高度先端的な臨床検査技術に対応できる「生命情報を分析し健康状態を科学的に解析するスペシャリスト」の育成をはかりたいと考えています。大学院教育では、高度な専門知識や技術に精通すると共に、科学的な思考能力を備えた臨床検査技師、教育・研究者の育成をはかりたいと考えています。



写真3 埼玉県立大学 実習